

施工手順書⑨-3

フィット(fit)

2枚引き違い戸(上吊)

ステルス枠 施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
 ※マルコシリーズの2・3枚引き違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。
 ※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した場合に限ります。

①木工事	①-1.木工事・標準仕様 / ①-2.木工事・準耐火仕様
②クロス・塗り壁工事	
③扉・金物の取付	③-1. 開き戸 ③-2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊) ③-3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動) ③-4. 片引き戸(床付レール)

シリーズ専用

※シリーズ専用の施工手順書(④~⑨)は木工事、クロス・塗り工事、扉・金物の取付が一式含まれます。

④クローゼット	④-1. 折れ戸 ④-2. 物入片開き戸、両開き戸、物入4枚・6枚開き戸 ④-3. スライド片開き戸
⑤オートマチックドア	⑤-1. 片引き戸(上吊)
⑥ヴェトロ	⑥-1. アウトセット片引き戸(上吊) ⑥-2. 開き戸
⑦カエサル	⑦-1. スイングドア
⑧マルコ	⑧-1. 3枚引込み戸(上吊・非連動) ⑧-2. 2枚引分け戸、4枚引違い戸(上吊)
⑨フィット	⑨-1. スイングドア ⑨-2. 片引き戸(上吊) ⑨-3. 2枚違い戸(上吊)

施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



注意

● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので
扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、
ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは
必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、
洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

□ 2枚引違い戸(上吊)

forステルス枠

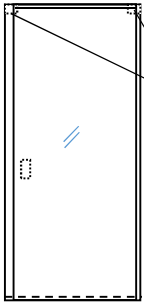
【フィット専用】

施工手順書2021/1作成

2021/9更新

■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具			同梱品			
部材	数量	備考				
引き戸	2枚	引手取付済み(注1) ケーシング取付済み				
 <p>ケーシング (旧名称:固定カップ)</p> <p>A面:ミラー/(注1)通し引手 B面:化粧面材/(注1)引手金物</p>						
				<p>(注意)</p> <p>フィットの扉重量は最大約55kgです。</p> <p>・扉を運ぶ時、吊り込む時の角当て等、取扱いには十分ご注意ください。</p> <p>・重量扉専用の上レール、上ローラーを使用しております。</p> <p>他シリーズの上レール、上ローラーとは互換性がございません。</p>		

下地枠			同梱品	施工手順書		
部材	数量	備考				
縦枠下地	2本					
上枠下地	1本					
開口定規	1本	下地枠内寸法用				
						

下地金物箱			同梱品	上レール	上ローラー	デュアルソフトクローザー					
部材	数量	備考									
金物箱	1式			2本(付属ビス含む)	2ヶ	2ヶ					
レール	1式										
 <p>セット毎に梱包</p> <p>レール: セット毎に 邸別梱包</p>				エンドプレート	化粧キャップ	トリガー	トリガー取付治具				
											
				4ヶ(ビス4本付)	4ヶ	4ヶ(ビス8本付)	1ヶ				
				スパナ	床付ガイド	調整ビス					
											
				1ヶ	2ヶ(ビス4本付)	1セット					
						<p>※準耐火納まりの場合</p> <table border="1"> <tr> <td>H24</td> <td>28本</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>28本</td> </tr> </table>		H24	28本	H26	28本
H24	28本										
H26	28本										

□ 2枚引違い戸(上吊) 【フィット専用】

forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2021/9更新

1 施工前の確認事項

- ① 下地枠を取付ける前に、開口部の巾（図面：ROW寸法）と高さ（図面：床仕上～開口高さ）の確認をしてください。（縦枠下地は床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください）

※1				
	隙間がある	隙間がある	隙間なく固定	
	×	×	○	
※2	<p>Row寸法 =(下地枠外W)</p>		<p>ボード内寸法 =(下地枠外W)</p>	
	図面上のRow寸法（下地枠外W）の確認		【準耐火両入隔壁の場合】	

注意

- ※1：下地枠は躯体（構造材）に取付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。
 ※2：施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法（下地枠外W）を確認してください。
 ※開口部（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で精度を十分に確認してください。

2 縦枠下地の取付け

- ① 縦枠下地を柱に固定します。（向って左側は下地断面が厚い方、右側は薄い方）
 枠の位置は壁厚の真ん中に置き、柱にあててレーザー等で立ちを見ながら同梱されている調整ビスにて枠の固定を行ってください。（縦枠下地は壁厚より1mmずつチリが出ます）
※準耐火納まりの場合、1mmのチリはありません。

調整ビス	調整ビス	<p>＜袖壁Ver.＞ 接着剤塗布 コーススレット ※壁厚と同じ巾の為、1mmずつのチリはない</p>	<p>＜入隅Ver.＞ コーススレット ビス 石膏ボード</p>
調整ビスにより枠を固定	壁厚より1mmずつチリが出る	【準耐火納まりの場合】	
		コーススレットビスで固定(2mmクリアランスは無) 入隅の場合、石膏ボードの上に縦枠を取付け	

- ② 取付けの際に調整ビスの中に同梱されているクリアランススペーサー（2mm）を躯体と枠の間に入れクリアランスを保ちビス固定を行ってください。（図面寸法：躯体と縦枠下地のクリアランスは2mm） また縦枠下地の裏側下部にあらかじめ2mmのパッキン材がついています。
※準耐火納まりの場合、2mmのクリアランス不要

<p>クリアランススペーサー 調整ビス</p>	<p>2mm</p>		<p>パッキン材</p>
クリアランススペーサーを挟む	2mmのクリアランスを保ち調整ビスにより枠固定	あらかじめ縦枠下地の裏側下部に2mmのパッキン材がついている	

注意

- ※縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材が取付けてありますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。
 ※クリアランススペーサーが抜けない場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。
 ※躯体がスタッドの場合は石膏ボードに直接、縦枠下地を取付けると調整ビスが利かないので、必ず間に木材（15mm以上）を入れてください。
 ※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり、調整が利かなくなる可能性があるため、その際は別の所で再度取付けを行ってください。




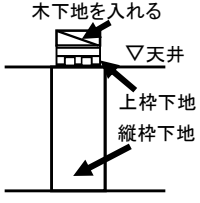
□ 2枚引違い戸(上吊) 【フィット専用】

forステルス枠




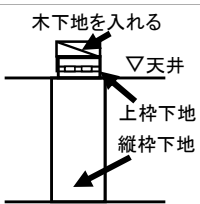
施工手順書2021/1作成

2021/9更新

3-1 上枠下地の取付け (上枠勝ち納まりの場合)

<p>① 上枠下地を接着剤・取付けビス(現場手配)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取付け位置は壁厚の真ん中となります。(縦勝ちに納まります)その際に上枠下地の裏側には30mm以上の木材を入れてください。</p>			 <p>ボード厚分の欠き込み</p>	 <p>木下地を入れる ▽天井 上枠下地 縦枠下地</p>
<p>② 上枠下地と石膏ボードを連続して納める場合、野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さを確保してください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。</p>	<p>注意</p> <p>厚み30mm以上、且つ垂れ下がらないような厚みの木下地 ※扉1枚あたり最大重量55kg</p> <p>野縁を躯体に確実に固定する</p> <p>上枠下地を躯体に確実に固定する</p> <p>石膏ボード</p> <p>石膏ボードの厚さを確保して、野縁を躯体に固定 その後、野縁に石膏ボードを取付ける</p>			
<p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします) ※下地枠の取付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。 ※下地枠取付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、上レールビスと干渉しない位置にてビス止めを行ってください。 ※上枠下地の裏側には、必ず厚み30mm以上、且つ垂れ下がらないような厚みの木下地を入れてください。(扉1枚あたり最大重量55kg) ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁割れの原因となります。 ※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。 				

3-2 上枠下地の取付け (天井ボード勝ち納まりの場合)

<p>① 上枠下地を接着剤・取付けビス(現場手配)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取付け位置は壁厚の真ん中となります。(縦勝ちに納まります)その際に上枠下地の裏側には30mm以上の木材を入れてください。</p>			 <p>ボード厚分の欠き込み</p>	 <p>木下地を入れる ▽天井 上枠下地 縦枠下地</p>
<p>② 野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さを確保してください。その後、石膏ボードを上レール溝に合わせて野縁と上枠下地に固定してください。</p>	<p>注意</p> <p>厚み30mm以上、且つ垂れ下がらないような厚みの木下地 ※扉1枚あたり最大重量55kg</p> <p>野縁を躯体に確実に固定する</p> <p>上枠下地を躯体に確実に固定する</p> <p>石膏ボード</p> <p>石膏ボードの厚さを確保して、野縁を躯体に固定 その後、野縁と上枠下地に石膏ボードを取付ける</p>			
<p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします) ※下地枠の取付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。 ※下地枠取付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、上レールビスと干渉しない位置にてビス止めを行ってください。 ※上枠下地の裏側には、必ず厚み30mm以上、且つ垂れ下がらないような厚みの木下地を入れてください。(扉1枚あたり最大重量55kg) ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁割れの原因となります。 ※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。 				

□ 2枚引違い戸(上吊) 【フィット専用】

forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2021/9更新

4 縦枠下地の調整・クサビまたはパッキン材固定

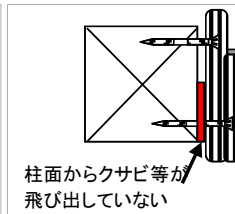
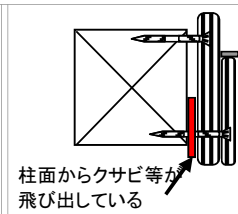
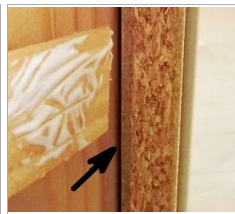
- ① 下地枠の取付けが終わったら、同梱品の開口定規にて下地枠内W寸法の確認をしてください。調整が必要な時は、手動ドライバーにて縦枠下地の出し入れを行ってください。



下地材内の開口定規にて開口を確認

下地枠内

- ② ビスでの取付け・調整が終わったら、縦枠下地と躯体の間にクサビ、またはパッキン（現場手配品）を接着剤併用にて入れて固定してください。



クサビまたはパッキンの表裏に接着剤を塗布し、縦枠下地と躯体の間に差込む

クサビまたはパッキンの入れ方

×

クサビまたはパッキンの入れ方

○

注意

- ※ウォールスルーが並列する場合や、その他納まりでビスがはみ出してしまう恐れがある場合については、別のビス（現場手配品）にて取付けを行ってください。
 ※クサビ、またはパッキンは、ビスとビスの間に入れてレーザー等で立ちを見ながら行ってください。
 ※クサビ、またはパッキンが柱面から飛び出していると石膏ボードの取付けができないので、柱面からクサビ等が飛び出さないようにしてください。

5 巾木施工

- ① 巾木を接着剤にて、縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取付けてください。（接着剤は酢ビ系をお奨めします）



接着剤全面塗布

下地の巾木欠き込み部分
(7×30)

下地の欠き込み部分にはめ込む様に取り付け

注意

- ※出荷時には、シンプル巾木の欠き込み（7×30）がされています。30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場にて高さ方向の切り欠きを行ってください。（巾木厚さ7mm以上の対応は行っていません）

□ 2枚引違い戸(上吊) 【フィット専用】

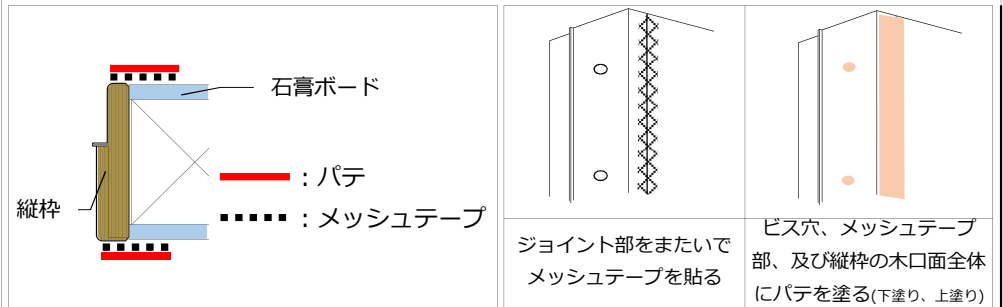
forステルス枠

施工手順書2021/1作成

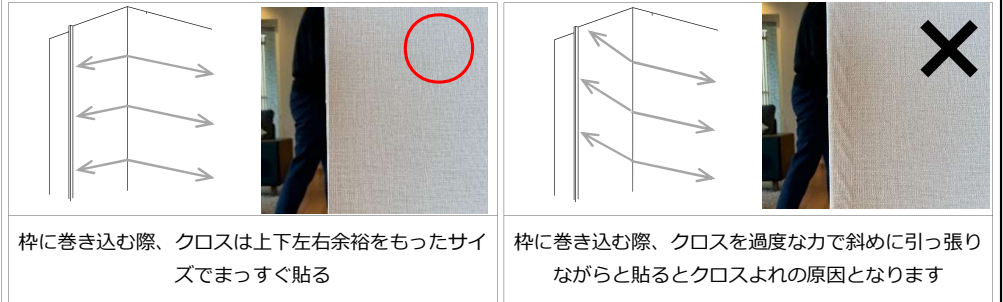
2021/9更新

6 縦枠クロス施工【縦枠袖納まりの場合】

- ① 縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。



下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。
金物加工部をまたいでクロス貼ってください。

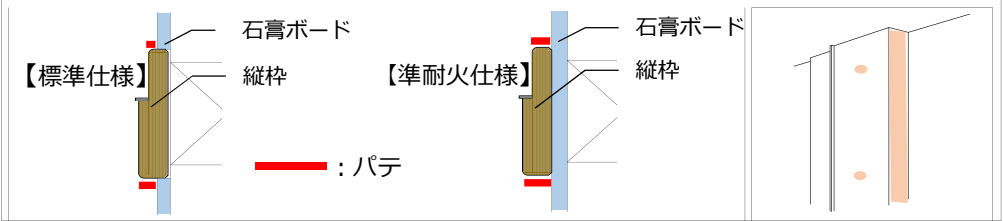


注意

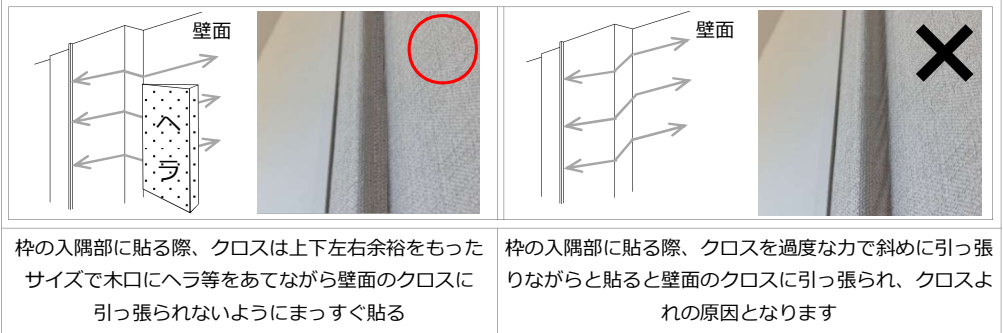
- ※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。
- ※縦枠の木口面全体にパテを塗ってください。

6' 縦枠クロス施工【縦枠入隅納まりの場合】

- ① 縦枠の入隅部は貼りづらく、クロスを貼る際にクロス面積が大きい壁面のクロスに引っ張られやすくなりますので注意が必要です。
縦枠の木口面にパテ等を塗り、クロス貼る際は縦枠の木口面をへら等であてながら壁面のクロスに引っ張られないように、まっすぐ貼ってください。
金物加工部もまたいでクロス貼ってください。



ビス穴、縦枠の木口面全体にパテを塗る
(木口面の見附寸法が小さく、パテが塗りにくい箇所はコークボンドを塗る)
※但し、クロス厚が薄い場合はコークボンドで不陸が出ないようにご注意ください



注意

- ※戸尻側の上ローラーの向きに注意してください。(突起がある方が内側)
- ※ねじの締め過ぎやねじ頭の引っ張りに注意してください。上レールが変形したり、ねじ頭がソフトクローザーに接触する等してソフトクローザーが誤作動することがあります。
- ※トリガー取付け穴には、上レールビスを固定しないでください。
- ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎると金物が破損する可能性があるので注意してください。

□ 2枚引違い戸(上吊) 【フィット専用】

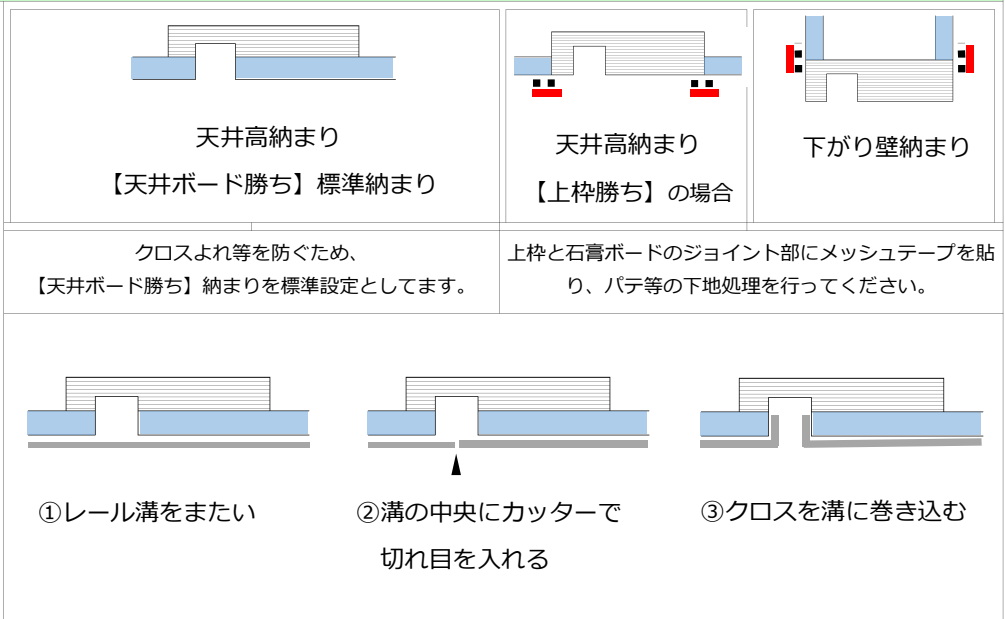
forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2021/9更新

7 上枠クロス施工

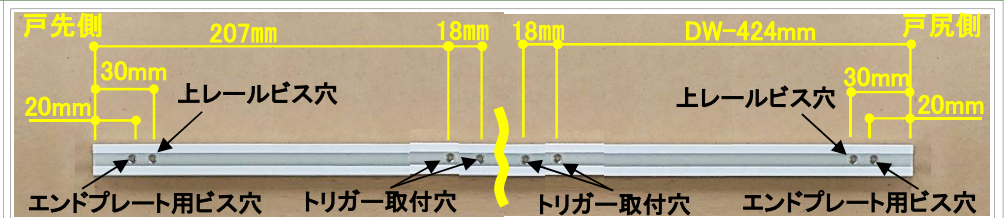
① 上枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。※天井高納まりの場合、標準設定の【天井ボード勝ち】納まりではジョイント部が発生しませんので不要です。
上レールが取付く場合の天井クロスはレール溝に巻き込み、上レールを取付けてください。



注意 ※溝に真っ直ぐ入っていない状態でビス止めすると、トリガーが変形してしまう恐れがあるので注意してください。
※トリガーは上レールの溝部分に真っ直ぐに入るようにして、必ず手動ドライバーにて固定してください。

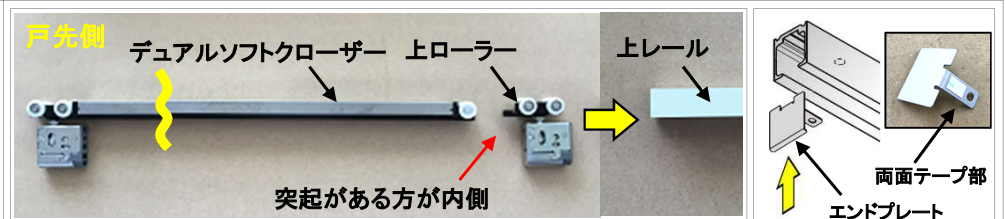
8 上レールの取付け

① 上レールを取付ける際、戸先側・戸尻側の向きを確認してください。(両側ソフトクローザー付の為、両側にトリガー穴加工がされており、距離の短い方が戸先側になります)
上レールは別途梱包にあります。



上レールの戸先側の向き確認

上ローラーを上レール内部に入れてください。(デュアルソフトクローザーが戸先側、上ローラーが戸尻側)
上レール端部にエンドプレートを両面テープで仮止めしてください。
付属の取付けビスで、上レールとエンドプレートを上枠に固定してください。



上ローラーを上レールに入れる

エンドプレートを両面テープで仮止めし、上レールと一緒に固定する

注意 ※戸尻側の上ローラーの向きに注意してください。(突起がある方が内側)
※ねじの締め過ぎやねじ頭の出っ張りに注意してください。上レールが変形したり、ねじ頭がソフトクローザーに接触する等してソフトクローザーが誤作動することがあります。
※トリガー取付け穴には、上レールビスを固定しないでください。
※建具の開閉は、勢いよくやりすぎると金物が破損する可能性があるので注意してください。

□ 2枚引違い戸(上吊) 【フィット専用】

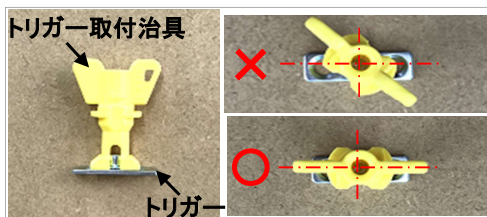
forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2021/9更新

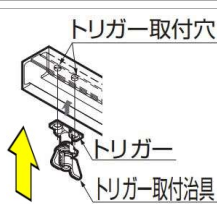
9 トリガーの取付け

① トリガーを取付治具にセットします。

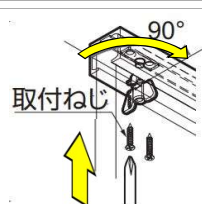


トリガーを取付治具にセット

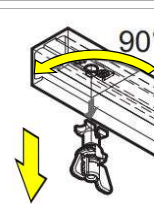
② トリガーを取付穴に合わせてください。治具を90°回し、トリガーを付属ねじで取付けてください。治具の向きを戻し外してください。



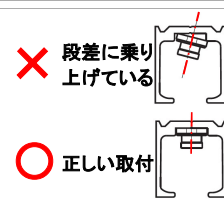
トリガーの穴を合わせる



治具を90°回し、トリガーを取付ける



治具を外す



✗ 段差に乗り上げている

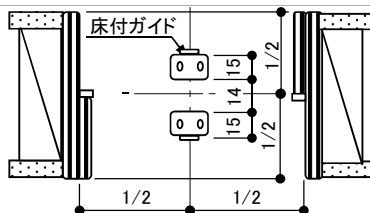
○ 正しい取付

※溝に真っ直ぐ入っていない状態でビス止めすると、トリガーが変形してしまう恐れがあるので注意してください。
※トリガーは上レールの溝部分に真っ直ぐに入るようにして、必ず手動ドライバーにて固定してください。

注意

10 床付ガイドの取付け

① 床付ガイドを取付けます。金物は別途金物箱にあります。



床付ガイドの取付け

※ガイドを取付ける際、下穴をあけてから取付けを行ってください。

注意

□ 2枚引違い戸(上吊) 【フィット専用】

forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2021/9更新

11 建具の吊り込み

<p>① 建具下の溝をガイドに差し込みます。</p>				
	<p>建具溝に 床付ガイドを差し込む</p>			
<p>② 建具を起こしていきながら、建具上部のケーシングと上レール内にある上ローラーを連結して、吊り込み完了です。</p>				
	<p>ケーシングと 上ローラーを連結する</p>	<p>パチンの音を確認</p>	<p>上ローラーのレバーの位置を確認する</p>	
<p>注意</p>	<p>※建具を持ち上げる際は天井に建具がぶつからない様に気を付けてください。 ※上ローラーとケーシングは、パチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと使用中、外れる恐れがあります。 ※上ローラーを取り外す際、素手では外れない場合はプライヤー等の工具を使用して取り外してください。 ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎるとソフトクローズが利かなくなったり、上ローラーが破損する可能性があるので注意してください。</p>			

12 上ローラーでの調整

<p>① 吊り込み後に上ローラーで調整をする際は、上下調整は下側のネジ、左右調整は上側のネジにて、手動ドライバーで行ってください。</p>			<p>【調整範囲】 上方向3.0mm 下方向4.0mm 左右方向±2.0mm</p>	
	<p>上ローラー 上下の調整</p>	<p>上ローラー 左右の調整</p>		
<p>②</p>				
<p>注意</p>	<p>※調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。 ※ソフトクローズ機能の調整はできません。</p>			

□ 2枚引違い戸(上吊) 【フィット専用】

forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2021/9更新

13 化粧キャップの取付け・跳ね上がり防止ナットの固定

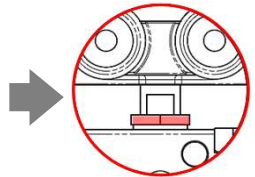
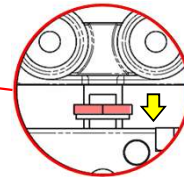
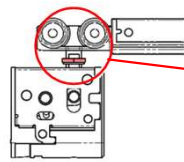
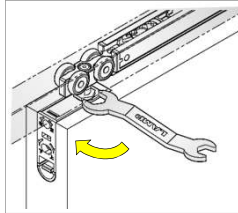
- ① 全ての調整を終えたら、化粧キャップを取付けてください。外す場合は、化粧キャップの溝にマイナスドライバー等を差し込み外してください。



化粧キャップを取付ける

※化粧キャップを外す場合
化粧キャップの溝に
マイナスドライバー等を
差し込み外す

- ② 両側のローラー吊軸の跳ね上がり防止ナットを、本体に接触するまでスパナで締めてください。



両側のローラー吊軸の跳ね上がり防止ナットを、本体に接触するまでスパナで締める

注意

- ※跳ね上がり防止ナット必ず締めてください。締め忘れは、故障・破損の原因になります。
※跳ね上がり防止ナットは締めすぎないでください。締めすぎると扉が下がり調整がずれます。


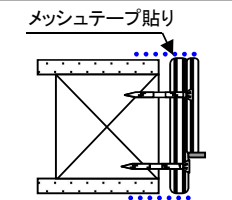
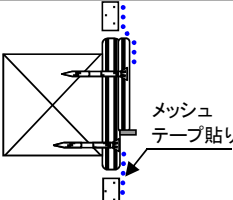
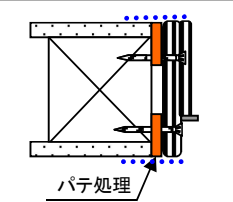
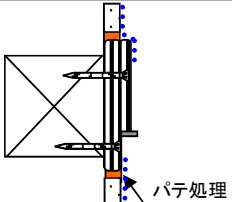
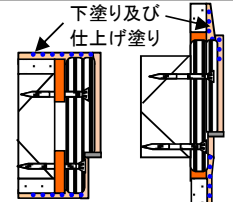
□ 塗り壁仕様施工方法 【フィット専用】

forステルス枠
施工手順書2021/1作成

1-1 共通事項

<p>① 枠の取付け・調整、クサビまたはバッキンの固定が終わったら、巾木を接着剤にて縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取付けてください。(接着剤は酢ピネをおすすめします)</p>				
	<p>接着剤全面塗布</p>	<p>下地の巾木欠き込み部分 (4×30)</p>	<p>下地の欠き込み部分にはめ込む様 に取付け</p>	<p>塗り代2~3mm</p>
<p>※出荷時には巾木の欠き込みはクロス仕様よりも3mm浅く(4mm)欠き込んであります。(巾木の厚み7mm以上の対応は行っておりません)</p> <p>※塗りの厚みは2~3mmの設定になっているため、受金物もクロス仕様より2~3mm出っ張るよう加工されています。</p> <p>※天井はクロス貼り、下がり壁は塗り仕上げの仕様となります。(下り壁仕上げ面の塗りの厚みは1.5mm以内となります)</p>				
<p>注意</p>				

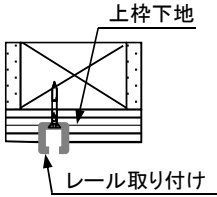
1-2 共通事項

<p>① 樹脂見切り・巾木・見切縁等に隙間がないように養生を確実にし、石膏ボードと枠をまたぐようにメッシュテープを貼ってください。</p>				
	<p>樹脂見切りなどに養生</p>	<p>メッシュテープ貼り (石膏ボードと枠をまたぐように貼る)</p>		
<p>② メッシュテープを貼った後、パテ処理(2度塗りを推奨)をしてください。パテが乾燥後、下塗り材(アク止め入り)をムラなく塗り、1~2日乾燥させてください(漆喰の場合は2度塗り)。その後、仕上げ材をムラなく塗り、3~4日乾燥させてください。この時、ビス部分にもパテ処理を行ってください。</p>				
	<p>パテ処理(下地処理) (2度塗りを推奨)</p>		<p>下塗り及び 仕上げ塗り</p>	
<p>注意</p>	<p>※樹脂見切り・巾木・見切縁等は出の寸法が異なりますので、はみ出さないよう注意して塗ってください。</p> <p>※漆喰の場合、アク止めは1回塗った後に十分乾燥させ、さらにもう1回塗って、1~2日乾燥させた後に上塗りを行ってください。</p>			

□ 塗り壁仕様施工方法 【フィット専用】

forステルス枠
施工手順書2021/1作成

2-1 塗り壁施工前手順

<p>① <上レールの取り付け> 下り壁仕様の場合、上レールは塗り壁施工前に取付けてください。</p>				
	<p>塗り壁施工前に 上レール取付け</p>			
<p>注意</p>	<p>※塗りは下り壁の場合のみの設定です。天井納まりの場合はクロス貼り仕様のため、クロス貼り後にレールを取付けてください。 ※見切縁はボードより2.5mmチリが出ますので、見切縁よりもはみ出さないように塗り壁施工を行ってください。</p>			